

第 1 学年 外国語学習指導案

1 単元名

Unit 8 Think Globally, Act Locally (NEW HORIZON English Course 1)

2 単元について

○教材観

本単元では、教科書の登場人物である純が、いとこの美奈をクラスで紹介する発表活動で、困っている人々を助けたいという思いを伝える場面から始まる。続けて、美奈とほかの登場人物とのやり取りの中で、食品ロスや資源の浪費、水不足など世界規模での問題を扱い、ポスターを使って協力を呼びかける内容となっている。これまで教科書ではニュージーランドやハワイ、イギリスなど、諸外国の明るい側面を学習してきた。その中で外国に興味を持ち、知りたい・行ってみたいという気持ちが育まれていると思われる。そのタイミングで初めて途上国の困難な状況について学習する単元となる。Unit 8 Part 1では、学校に通えない子どものことが話題となっている。なぜ学校に通うことができないのかを考えさせ、当たり前学校に通うことができて日本と比較し、自分たちにできることはないのかという視点を持たせたい。そこから Part 2では本文の食品ロスや資源節約のテーマを通して、アフリカの飢餓の状況を伝える。Part 3では本文でアフリカの水不足の現状と募金への協力を扱っているため、Unit 全体を通して学習してきたアフリカの困難な状況と併せて、アフリカへの支援を促すメッセージを伝えられるような活動にしたい。

○生徒観

1年1組は、男子17名、女子18名、計35名のクラスである。全体としては前向きに授業に取り組み、積極的に発言しようとする様子が見られる。積極的な発言は見られるが、答えが明確なものや知識を問われる質問に対するものである場合が多く、答えのないものや自分の考えを発表するなどの場面では消極的になることも多い。英語については、塾で予習をしていたり、英会話に通っていたりすることによって、入学時点から得意としている生徒が数名いる。一方で公立学校と同様に、勉強に対してあまり前向きになれず、英語を苦手としている生徒も数名いる。

平均値としては高い水準だが、全員が参加できる授業を作りたい。英語を苦手としている生徒でも取り組みやすく、英語が得意な生徒は個性を発揮して楽しみながら取り組めるような課題を設定しながら授業を進めていきたい。また、答えのないものや自分の考えなどを発表し、それが他者から認められる経験をたくさん積ませることで、英語の授業に限らず、様々な場面で積極的に意見を出せる人になってもらいたい。

○指導観

本単元での新出文法は、「不定詞の名詞的用法」と「look 形容詞」である。不定詞の名詞的用法は小学校でも扱われており、本教科書 Unit 1 の Part 1 でも“I want to join the *sado* club!”という文が使われている。その際には“want to”で「～したい」という意味の熟語のようなものとして扱っていた。そのほかの形容詞的用法や副詞的用法については2年生になってから扱うため、すでに使ってきたものを新しい文法として伝えることで生徒が混乱しないよう丁寧に指導したい。「look 形容詞」については、これまでの本文には登場していないが、教師のクラスルームイングリッシュで使用したり、生徒が作文をする際に紹介したりしたことはある。似た表

現として“sound”を用いた文が Unit4 から使われており、直前の Unit7 でも“that sounds exciting”という文で使われている。このような既習表現を交えつつ、「見る」と「～のように見える」の使い分けができるように指導していく。

3 教科研究との関わり

・自ら思考し、課題解決する学習者を育成するために

本校英語科の研究主題は『“粘り強く考え、伝え合う”授業の創造』～自ら思考し、課題解決する学習者の育成～である。全体研究のテーマでも言及されている「自立した学習者」を育成するためには、自ら考え、課題を解決する力をつけさせることが必要であるという考えである。そのために、課題を解決するまで様々な方法やツールを用いて、粘り強く取り組み続ける授業を計画していく。英語は言語であり、「様々な方法」の中でももっとも重要なものとして他者とのやり取りがあげられる。やり取りの中で自分の考えが整理されたり、新しい考え方を手に入れたりする。その上で思考力・判断力・表現力を生かして課題解決をする場面を設定していきたい。生徒の実態として、答えのないものや自分の考えを発表することに対して消極的な生徒もいる。世界規模の問題を解決するために、自分たちにできる身近な取り組みを考えるという、答えのない難問を粘り強く考えさせ、クラスメートと伝え合うことによって解決に向かうという経験を積ませることができる授業にしたい。

4 CAN-DO リストの形での学習到達目標（第1学年）

山梨大学教育学部附属中学校版 CAN-DO リスト（新学習指導要領対応）との関連

	話すこと（発表）
1 年生	○日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ち等を、自分で作成したメモ等を活用しながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話すことができる。

5 単元の目標

アフリカの困難な状況を伝え、協力を呼びかけるメッセージを作成するために、教科書の本文からアフリカの抱えている問題を知り、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。

6 言語材料

○表現

She wants to help people in need. [不定詞の名詞的用法]

What do you want to eat? [不定詞の名詞的用法の疑問文]

The children look happy. [look + 形容詞]

○語彙

ethnic / Africa / Kenya / volunteer / need / teach / try / best / respect / become / in need / do one's best / African / reduce / waste / plastic / paper / straw / original / reusable / course / of course / well / other / village / collect / far / group / build / these / money / on the other hand / for a long time

7 単元の評価規準

	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
話すこと (発表)	・不定詞の名詞的用法や〈look + 形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・不定詞の名詞的用法や〈look + 形容詞〉を用いた文の理解をもとに、したいことや、人や物の様子について説明することができる。	・アフリカの困難な状況を伝え、協力を呼びかけるメッセージを作成するために、アフリカの抱えている問題を知り、事実や自分の考え、気持などを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。	・アフリカの困難な状況を伝え、協力を呼びかけるメッセージを作成するために、アフリカの抱えている問題を知り、事実や自分の考え、気持などを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えようとしている。

8 単元の指導と評価の計画(全7時間)

時間	○目標 ・主な学習(言語)活動	評価			
		知	思	主	評価規準(評価方法)
1	○単元目標の確認 ・Preview の動画等を用いて単元全体の概要を把握する。 ・単元末課題の説明を行う。 ○Part 1 本文内容理解 ・本文を通してケニアの子どもの学習環境を知り、自分たちの環境と比較する。	○			ワークシートおよび振り返り欄の記述点検
2	○Part 1 本文内容理解及び本文を活用しての表現活動 ・ケニアにおける学校教育の現状を知り、相手に伝えられるようにする。 ○不定詞の名詞的用法の導入	○	○		ワークシートおよび振り返り欄の記述点検 撮影した動画の視聴
3	○Part 2 本文内容理解 ・本文を通して食品ロスや資源の節約について考える。 ・ケニアにおける飢餓の状況を知り、相手に伝えられるようにする。	○			ワークシートおよび振り返り欄の記述点検
4	○Part 2 本文内容理解及び本文を活用しての表現活動 ・ケニアにおける学校教育の現状を知り、相手に伝えられるようにする。 ○look+形容詞の導入	○	○		ワークシートおよび振り返り欄の記述点検 撮影した動画の視聴

5 (本時)	○Read and Think 本文内容理解 ・水不足で困っている外国の状況について知り、自分たちにできることを考えるために、本文を理解する。 ・ケニアにおける水不足の状況を相手に伝えられるようにする。		○		ワークシートおよび振り返り欄の記述点検 撮影した動画の視聴
6	○単元末課題 ・アフリカ飢餓救援米への協力を促すためのメッセージを考え、ポール先生が活動により参加したくなるように、スライドを用いてメッセージを伝える動画を撮影する。	○	○	○	パフォーマンス課題の評価

単元末課題について

場面設定			
山梨県ではアフリカ飢餓救援米活動として、毎年アフリカにお米を送る取り組みをしています。附属中学校としても活動に参加することになりました。ポール先生がその活動のお知らせを見つけ、掲載されている写真に興味を持ちましたが、説明が日本語で書かれていたため、活動内容がよくわかりませんでした。ポール先生がより活動に協力したくなるようなメッセージを考え、スライドを使って説明しましょう。			
・パフォーマンステストにおけるルーブリック(評価規準)			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	文法・表現に誤りがなく、既習の語句や表現を用いてアフリカ飢餓救援米活動の内容や活動への参加を促すメッセージを伝えることができる。	相手が活動に参加したいという気持ちになるように、自分が伝えたいメッセージを既習の語句や表現を用いてわかりやすく具体的に説明することができる。	相手が活動に参加したいという気持ちになるように、メッセージの内容や説明の仕方を工夫して、わかりやすく具体的に説明しようとしている。
b	文法・表現にやや誤りはあるが、既習の語句や表現を用いてアフリカ飢餓救援米活動の内容や活動への参加を促すメッセージを伝えることができる。	相手が活動に参加したいという気持ちになるように、自分が伝えたいメッセージを既習の語句や表現を用いて説明することができる。	相手が活動に参加したいという気持ちになるように、メッセージの内容や説明の仕方を工夫して説明しようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

パフォーマンステストにおける、具体的なイメージ(Bの姿)

Hello, Mr. Paul. I'll introduce about Rice Drive for Africa. African children have a big problem about food. They look hungry. I want to help them. We can send rice, so *we collecting* rice for them. We need your help. Please bring rice next Tuesday.

9 本時の学習

(1) 日時 11月29日(土)

(2) 場所 家庭科室

(3) 目標

より募金活動に協力したくなるメッセージを伝えるために、教科書を読み、アフリカの水不足の現状を深く理解することができる

(4) 展開

時間	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点
2分	○Greeting ・あいさつをする	・あいさつをする	
20分	○本時の目標の確認 【Today's Goal】 より募金活動に協力したくなるメッセージを伝えるために、教科書を読み、アフリカの水不足の現状を深く理解することができる		
	○Reading 本文理解 ・オーラルインタラクションで本文の概要をつかむ ・発問に答えながら本文の内容を理解する ・音読練習をする	・オーラルインタラクションで本文の概要を生徒に理解させる ・本文に関する発問を与える ・音読練習の指示を出す	・次の活動の練習となるように、よりよいポスター作りの視点を与える
25分	○Activity よりよいポスターにする方法を考える ・本文(ポスター)を読んで募金したくなったかどうかを考える ・より募金したくなるポスターにするにはどうすればよいか考える ・教科書の写真等を使い、募金を促すメッセージを伝える練習をする ・ペアで発表し合い、お互いにフィードバックをする	・本文をもう一度読ませ、募金したくなるかどうか考えさせる ・募金を促すポスターにする方法を考えさせる ・中間指導で良い例などを共有する	・動画を撮影し、説明がよりよいものになるように改善させる

	・相手を変え、内容や伝え方を工夫して発表する		
3分	○Reflection 振り返りと次回の確認 ・パフォーマンステストについての説明を聞く ・振り返りシートを記入する	・次回のパフォーマンステストについて説明する	

(5) 本時の評価規準

	知識・技能
a	本文の内容に自分の考えや気持ち、追加の情報等を加え、アフリカの水不足の現状と支援を呼びかけるメッセージを伝えることができる。
b	本文を活用し、アフリカの水不足の現状と支援を呼びかけるメッセージを伝えることができる。
c	「b」を満たしていない